

# 広島大学

令和6年度 広島大学光り輝き入試

総合型選抜Ⅱ型

## 解答例又は出題の意図等

文学部 人文学科 歴史学コース

西洋史学

科目名：小論文

解答の公表に当たって、一義的な解答が示せない記述式の問題等については、「出題の意図又は複数の若しくは標準的な解答例等」を公表することとしています。

また、記述式の問題以外の問題についても、標準的な解答例として正答の一つを示している場合があります。

令和6年度 広島大学光り輝き入試総合型選抜（Ⅱ型）

文学部人文学科 小論文問題 解答例又は出題の意図等

分野

西洋史学

問Ⅰ（解答例）

百年戦争のそもそもの原因は、ノルマン朝からプランタジネット朝へと続く大陸発祥のイングランド歴代王朝が領有した大陸領の領有問題にある。フランス北西部のノルマンディーとアンジューこそ、イングランド国王ジョンの治世にフランスによって奪取されたものの、依然としてフランス南西部アキテーヌにはイングランド国王の領地が広がっていた。こうなると、イングランド国王が大陸に領地をもつかぎり、フランス国王への臣従が必要か否かという問題は避けられなかった。イングランド国王は大陸領をもったまま、フランス国王との主従関係を解消したい。だが、フランス国王はイングランド大陸領があるかぎり、イングランド国王に対して主君の地位を放棄しない。とはいえ、13世紀末に両国王の対立が先鋭化し、百年戦争への戦端が開かれたのは、両王国間で現在の「国境」に近い考え方が芽生えたからである。まさしく同時期に経済成長が頭打ちになるなかで、両国王はその人的・物的な財源をなす領地の確保にかつてないほどいそしんだ。それが、おのおのの支配の境界に対する考え方を刷新させたのである。最初に行動を起こしたイングランド国王エドワード1世は、アキテーヌの独立を試みた。戦争が始まると、フランス側でも大きな変化が生じている。すなわち、司法・行政上、王国を地理的に区分するとき、イングランド大陸領との境界に「フロンティエール」という言葉が使われ始めたのである。それはのちに、「フロンティア」、すなわち「国境」の語源となったところの言葉である。以後、戦争の渦中で、両国王の領有権の重なりはますます拒否されるようになり、1440年代以降、メヌ、ノルマンディー、アキテーヌについては、両国王のあいだに主従関係が提案されることはあっても、ことごとく征服か被征服か白黒つける決着が求められるようになった。だからこそ、いかなる和平交渉も妥結されなかったのである。（795字）

## 令和6年度 広島大学光り輝き入試総合型選抜（Ⅱ型）

## 文学部人文学科 小論文問題 解答例又は出題の意図等

分野

西洋史学

## 問Ⅱ（解答例）

フランスを中心に1337年と1453年のヨーロッパ社会を比較すると、その最大の違いは、各地の王国の政治的な一体性が大幅に強化されたことである。1340年、イングランド＝フランス間の戦争は、あくまでも国王同士の個人的な問題とみなされた。これが1360年、最初の平和条約であるブレティニー＝カレー条約締結時には、戦争の当事者は二人の国王とともに「二つの王国」となった。1396年のパリ休戦協定では、それまでの「国王」と「王国」に加えて、「臣民」が休戦の当事者として登場した。1420年のトロワ平和条約では、当事者は「二つの王国」へと一本化されたし、1454年には、フランスで「敵イングランド人」という表現が公式の王令に記されている。それは、両国王が相對峙する状態は変わらずとも、二人の背後にいる王国住人と国王との関係が大きく変化したからである。戦争をつうじて本格化した租税は、三部会の協賛のもとで身分や階層にかかわらず、すべての王国住人に一様に課された。こうしたなかで、王国住人は身分や地位に応じて個別にではなく、納税を行う一括りの集団、すなわち「臣民」として扱われ始めた。「臣民」という捉え方は、納税の問題とともに、王国住人が身分を超えて国王と一致協力してイングランド国王と戦うという、戦争の宣伝をつうじても広められた。課税と納税がこうした変化をもたらすと、徴収された租税は、国王個人や王家のものではなく、国王と臣民双方の上にそびえ立つ共同体のものとなった。そうした共同体こそ、当時の言葉で「レス・プブリカ」、すなわち「公共の事柄」、まさしく「国家」を意味するものとみなされたのである。こうして百年戦争は、「臣民」からなる「国家」間の戦争と化し、大陸からイングランド軍が撤退するころには、「フランス人」と「イングランド人」との戦争となっていたのである。（776字）

令和6年度 広島大学光り輝き入試総合型選抜（Ⅱ型）

文学部人文学科 小論文問題 解答例又は出題の意図等

分野	西洋史学
----	------

問Ⅲ（出題の意図）

歴史学研究に対する感性の鋭さ及び発想の独創性をみる。